平成３０年１０月３０日

学校通信「全国学力・学習状況調査」特集号

さらくら

学校教育目標　わくわく　いきいき　笑顔輝く　皿倉小
思いやりの心をもち、自ら学び、たくましく生きる
「皿倉っ子」の育成

北九州市立皿倉小学校　　校　長　福田　修二

平成30年度　全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年４月１７日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

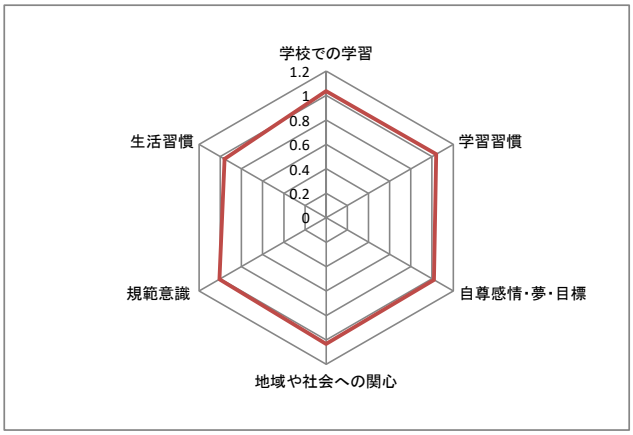
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語A	無回答率も低く、全体的によくできていた。文の中における主語と述語の関係に注意して文を正しく書く問題や目的に応じて適切な情報を捉える問題がよくできていた。漢字の読み書きに課題があり、漢字の書き取りの定着が必要である。 相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題も正答率が低かった。	上回っている
国語B	話すこと・聞くことに関する問題は、全国平均とほぼ同じである。しかし、読むこと・書くことにおいては課題が多く、記述式の問題の正答率が低い。目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題において、無回答率も高く、正答率も低かった。	下回っている
算数A	角に関する問題と図形の円に関する問題は、正答率が高かった。数と計算領域では、すべての問題で全国平均を下回っていた。四則計算の基礎的・基本的な定着が必要である。数量の関係を数直線上に表す問題や小数の除法の意味理解にも課題があった。また、単位量あたりや割合や折れ線グラフなど数量関係に関する問題にも課題がある。	下回っている
算数B	なぜその求め方になるのか、示された数量を関連付け根拠を明確にして説明を記述する問題において無回答率も高く、正答率も低かった。数学的考え方の定着が不十分である。	下回っている
理科	主として「活用」に関する問題の正答率が低い。全体的には、無回答率は、高くなく努力はみられるが、基礎的な知識・理解や科学的な思考・表現の定着が不十分である。	下回っている

２．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
家で学校の宿題をしている児童の割合は高く、家庭で一時間以上学習している児童の割合も昨年度に比べても増えてきている。しかし、家で計画を立てて勉強している児童や家で授業の予習・復習をしている児童の割合は、全国より低い。 将来の夢や目標を持っている児童が多い。しかし、自尊感情は低い。毎日同じ時刻に寝る児童や朝食を食べている児童も全国に比べて低く、基本的な生活習慣が身に付いていない児童の割合が高い。 学校では、課題解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいた児童は多いが、友達と話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていると捉えている児童は全国に比べて低い。

３．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

・基本的な計算問題や漢字の書き取りを繰り返し練習することによってより一層の定着を図る。
・算数科の数学的な考え方や国語科の読むこと・書くことに関する記述式の問題については、授業改善による定着を図りる。
・自分の考えをもつ場面や話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりする経験をもたせ活用力を身に付けさせる。

②　家庭生活習慣等に関する取組

・家で計画を立てて予習や復習をする習慣を付けさせるため、学校で家庭での計画を立てる必要性を児童に知らせ、必要に応じては計画を立てる時間を確保する。
・学校だよりや学年だより、保護者会等を通して朝食や就寝時間の確保による基本的生活習慣の定着の必要性や家庭学習の大切さを伝えていく。